

科目名	情報処理演習 B	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目
			<input type="checkbox"/> 卒業必修 <input type="checkbox"/> 栄養士必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
		開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
英文表記	Information Processing Literacy B	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
ふりがな	もりもと あつし	授業形態・修得単位	演習 ・1単位
担当教員名	森本 敦志	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	データを活用する技術や、社会での応用を学びます。また Excel の利用によりデータの集計・解析ができるようになることがもう一つのテーマです。		
授業概要	この授業では、データ関連の技術や社会での活用の現状を概観し、基本的なデータ解析の技術を Excel を使いながら学びます。データの収集から解析、視覚化までの基本的なプロセスを習得するとともに、データがビジネス、政策決定、社会問題にどのように活用されているかについても学びます。Excel を使った具体的なデータ処理技術を習得することで、データに基づいた意思決定がどのように行われるのか理解します。		
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 ・ データを活用する技術の知識や社会でのデータ活用の現状を学び、社会の変化に対応できる能力を身につける。 ・ Excel などのデータ解析ツールを用いて、データの分析ができるようになる。		
授業時間外の学習	授業の復習や課題を行うとともに、パソコンを使う機会を増やしスキルが定着するようにしてください。		
履修条件	「情報処理演習 A」を履修済みであることがのぞましいです。また、所有パソコンに Word, Excel をインストールしておいてください。		
授業計画			
第1回	社会で起きている変化（ビッグデータ、検索エンジン、SNS、AI の進化）		
第2回	社会で活用されているデータ（データの種類、データの所有者、構造化データ・非構造化データ）		
第3回	データと AI の活用領域（事業活動におけるデータ、活用目的ごとのデータ）		
第4回	データと AI 利活用のための技術（予測、グルーピング、クラスタリング、非構造化データ、データ可視化、人工知能）		
第5回	データ・AI 活用の現場（データ分析による意思決定,データ分析の実際）		
第6回	データ・AI 利活用の最新動向（最新のビジネスモデル、最新技術）		
第7回	データを読む（データの種類、代表値、母集団と標本）		
第8回	データを読む（相関係数、相関関係と因果関係）		
第9回	データを説明する（データの可視化）		
第10回	データを説明する（データの可視化）		
第11回	データを扱う（データ解析ツール）		
第12回	データ・AI を扱う上での留意事項（GDPR, AI 倫理, 悪用事例）		
第13回	データを守るうえでの留意事項（セキュリティーとプライバシー）		
第14回	データ分析演習（農林業センサスを用いたデータ分析）		
第15回	データ分析演習（農林業センサスを用いたデータ分析）		
第16回	定期試験		
テキスト	「教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）」講談社		
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。		
成績評価の方法	授業中での課題(50%)、試験(50%)により判断します。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の金額を納めていない場合は試験を受けることができません。大幅な遅刻や無許可での退		

	出は欠席とします。課題は授業内で指示します。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	毎週 金曜日 13:00～14:30
受講生に望むこと・受講のルール	各自のPC(ノートPC)を使う予定です。資料の配付や課題の連絡にはポータルサイトや各自の大学用メールアドレスを使います。パソコンの操作に不慣れな学生にも対応できるレベルですが、人によっては授業の進み方が早いと感じるかもしれません。予習・復習をしっかりとるようにしてください。